

東海道近江:02鈴鹿峠一山中一猪鼻一南土山一白川

蟹が坂古戦場跡碑

磐が坂

野街道筋 京都仙洞御所の公家が皇族の名代として伊勢神宮と多賀大社を参詣の時利用した道 北土山家光の乳母春日局が多賀神社参詣のために発した。土山一日野一八日市一中仙道 西の追儺 小幡までの約9里。道標2柱

「右 北国たが街道、ひの八まん道」 海道伝馬館 瑞石山永源寺

常明禅寺 「たかのよつぎかくわんおんみち」 階屋脇本陣跡

井筒屋・木・来見橋 白川神社

大黒屋本陣跡 高札場場跡 田村川

上島鬼貫の句碑

広重の"東海道五十三次"の 「春の雨」はこの辺りを描く

田村神社

土山宿 (坂下宿より2里半)

本陣2、脇本陣1、問屋場1、旅籠44

町並みは東の生野町から西端の瀧町までの10町。

中町、吉川町が宿の中心。本陣、問屋場が置かれた。 近江甲賀郡に属し、中世甲賀53家の一つ土山氏が

治めていた。古代東海道(伊勢大路)が通じ古代から

交通の要衝であった。御代参街道が整備されてから

中仙道と東海道が結ばれ日野商人を初め近江商人の

発展に貢献した。鈴鹿峠を挟んで坂下宿とは間の宿。

祭神 坂上田村麻呂、嵯峨天皇、鈴鹿御前 田村麻呂は延暦16年(797)征夷大将軍任じられ 奥州方面の朝廷勢力拡大に貢献。

奥州征伐の帰途、鈴鹿峠の鏡岩に現れた鬼に 向かって矢を放ち鬼を退治。

厄除けの神として祀られる。弘仁2年(811)没。

垂水斎王頓宮跡

Ħ

瀧樹神社

垂水斎王頓宮跡

洲 川白川

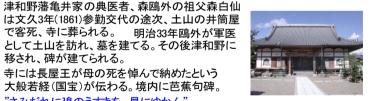
平安一鎌倉時代380年間天皇が即位される度に 天皇のご名代として天照大神のご心霊の御杖代 を勤められる皇女、王女が斉王として京都から 勢多、甲賀、ここ垂井、鈴鹿、壱志に泊まって伊勢 に向かった。5泊6日の群行であった。 ここで天皇から授かられた"別れのお櫛"を外して 小箱に納めお守りとする行事が行われたという。 頓宮として明らか残るのは此処だけだという。



蟹が坂(飴)の由来

その昔 鈴鹿峠に住民に危害を加えたり、旅人を 食べてしまう巨大な蟹がいた。

あるとき、恵心院の僧都、源信和尚が、戒めを 授けると八つに砕けて解けてしまい黄色の液体と なった。それをなめると甘かった。和尚は蟹の霊を 供養するとともに黄色い液体を集めて飴を造った という。今も売られている"蟹が坂飴"。



うえじまおにつら 上島鬼貫の句碑

鬼貫は大阪 伊丹の生まれ。東の芭蕉、西の鬼貫 と称された人、独自の俳諧の境地を拓く。 貞享3年(1686)東海道の旅のおり土山にてお六櫛 買い求める。"吹かば吹け櫛を買たに秋の風"



蟹) 坂古戦場跡

伊勢国司北畠具教は天文11年(1542)山中城を せめた。城主山中丹後守秀國は防いだが再度 攻められたので、守護六角定頼の援軍を得て ここ蟹が坂で阻止する。



•山中一里塚跡

十山本陣

常明禅寺

移され、碑が建てられる。

寛永16年(1634)三代将軍家光が上洛の時 土山喜左衛門が本陣職を任命され勤める 以来明治3年まで土山家が勤める。 明治元年には明治天皇が泊まられる。

寺には長屋王が母の死を悼んで納めたという

大般若経(国宝)が伝わる。境内に芭蕉句碑。

"さみだれに鳰のうすきを 見にゆかん"



大黒屋本陣

参勤交代などで土山本陣だけでは対応 できなくなったので豪商立岡氏が控本陣 に指定される。本陣年代不詳。



土山陣屋

天和3年(1683)代官猪飼治郎兵衛が建てる その後代官は多羅尾氏、岩出氏、多羅尾氏と 代わり明治まで続く。



安永4年(1775)当時の代官岩出伊右衛門が 幕府に願い出て許可になり完成。 全長37m幅4m。工事費捻出のため橋の 西詰に番所が設けられる。旅人一人3文徴収。 昭和の初め洪水で流されるがその後架けられ なかった。平成17年3月架けられる。